

## 越山若水

2021.4.15

平安時代の名随筆「枕草子」の

作者清少納言は、三十六歌仙の一

人清原元輔の娘。一条天皇の皇后

定子に仕えた才女で、歌人として

も名を知られ、小倉百人一首に選

ばれている▼「夜をこめて鶏のそら音ははか

るとも世に逢坂の関はゆるさじ」。夜が明け

ぬうちに、鶏の鳴き声をまねして私をだませ

うとしても、この逢坂の関は決して通れませ

んよ…。親しい仲の藤原行成とのやりとりを

詠んだ歌だが、その詳しい経緯は「枕草子」

に記される▼行成が夜更けに退出した理由を

朝を告げる鶏のせいにしたことに、清少納言

は中国「史記」の故事、孟嘗君が鶏の鳴き

まねで函谷関を通り抜けた逸話で皮肉った。

行成が恋の話で応じると、函谷関ならともか

く逢坂の関には「心かしくき関守はべり」と

切り返した▼ロマンスの世界ゆえ、ほほえま

しくもある。しかし事が原発の安全管理とな

ると話は違う。東京電力柏崎刈羽原発で昨年

9月、20代の社員が同僚のIDカードを持ち

出し中央制御室に不正入室。防護区域でエラ

ー警報が出たのに、警備担当員もすんなり許

可していた▼何ともお粗末な限りである。原

子力規制委員会は一連の防護不備に対し、事

実上の運転禁止命令を発出した。東電は福島

原発の処理水の海洋放出という課題も抱えて

いる。「心かしくき関守」を欠いた経営体質

と信頼の失墜。その代償はあまりに大きい。